



# All Japan Road Race Championship 2022 RACE REPORT

SDG Honda Racing / SDG Motor Sports Racing Team HARC-PRO.



## ■SDG Media Infomation

2022 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第8戦  
第54回 MFJ グランプリ SUPERBIKE RACE in SUZUKA

三重県・鈴鹿サーキット (1周 = 5.821km)

11月5日(土): 公式予選・JSB1000 レース 1 天候: 晴れ コース: ドライ

11月6日(日): 決勝・JSB1000 レース 2・3 天候: 晴れ コース: ドライ

観客動員数: 9,400人 (2日間合計)

### JSB1000クラス #5 名越 哲平 SDG Honda Racing

マシン: Honda CBR1000RR-R タイヤ: BRIDGESTONE  
欠場

### JSB1000クラス #28 榎戸 育寛 SDG Honda Racing

マシン: Honda CBR1000RR-R タイヤ: BRIDGESTONE  
Race 1 予選 9 番手 (タイム: 2分 07秒 502) 決勝: 7位  
Race 2 予選 7 番手 (タイム: 2分 07秒 553) 決勝: DNF  
Race 3 予選 10 番手 (タイム: 2分 07秒 032) 決勝: 6位  
シリーズランキング: 8位

### ST600クラス #33 國井 勇輝 SDG Motor Sports Racing Team HARC-PRO.

マシン: Honda CBR600RR タイヤ: BRIDGESTONE  
予選 4 番手 (タイム: 2分 11秒 467) 決勝: 3位  
決勝: 8位

### ST600クラス #20 千田 俊輝 SDG Motor Sports Racing Team HARC-PRO.

マシン: Honda CBR600RR タイヤ: BRIDGESTONE  
予選 21 番手 (タイム: 2分 13秒 563) 決勝: DNS  
シリーズランキング: 24位

### ST1000クラス #45 埜口 遥希 SDG Motor Sports Racing Team HARC-PRO.

マシン: Honda CBR1000RR-R タイヤ: DUNLOP  
欠場

### J-GP3クラス #9 小合 真士 SDG Motor Sports Jr. Team

マシン: Honda NSF250R タイヤ: BRIDGESTONE  
予選: 7 番手 (タイム: 2分 19秒 913) 決勝: 14位  
シリーズランキング: 9位

### MFJ CUP JP250 国際クラス #71 赤間 清 SDG Motor Sports Racing Team HARC-PRO.

マシン: Honda CBR250RR タイヤ: DUNLOP  
予選: 17 番手 (タイム: 2分 33秒 973) 決勝: 21位 (インタークラス: 11位)  
シリーズランキング: インタークラス 7位

### MFJ CUP JP250 国際クラス #27 石井 千優 SDG N-PLAN Racing

マシン: Honda CBR250RR タイヤ: DUNLOP  
予選: 4 番手 (タイム: 2分 30秒 906) 決勝: 6位 (インタークラス: 5位)  
シリーズランキング: インタークラス 2位

- 1 Motegi
- 2 Suzuka
- 3 Autopolis
- 4 Sugo
- 5 Tsukuba
- ★ Suzuka 8H
- ★ ARRC R3
- 6 Autopolis
- 7 Okayama
- 8 Suzuka



**SDG 國井勇輝が全日本初表彰台を獲得！ 埜口遥希が無念の負傷**



ST1000 #45 Haruki Noguchi

2022年シーズン全日本ロードレース選手権最終戦が三重県・鈴鹿サーキットで行われた。今回は、アジアロードレース選手権(ARRC)ASB1000クラスでシリーズランキングトップを走っている埜口遥希がSDG Moror Sports RT HARC-PRO. からST1000クラスにスポット参戦。2週間後に控えているARRC最終戦に向けて勢いをつけておきたいところだったのだが…。金曜日の走行開始早々に高速コーナーである130Rで他車に接触され転倒。このアクシデントで埜口は第6胸椎を骨折してしまい欠場を余儀なくされると同時にARRC最終戦にも出場できなくなってしまう。このため榎戸をリプレイスとして参戦させることを11月7日(月)に発表。初めて走るコースとなるが、埜口の思いを乗せて戦ってくる覚悟だ。



JSB1000クラスは、全日本ロードレース選手権史上初となる3レース制で行われ、土曜日にレース1、日曜日にレース2とレース3というスケジュールとなっていた。

今回は事前テストはなく、木曜日に特別スポーツ走行が設けられ、通常よりも1日多いレースウィークとなっていた。SDG Honda Racingの榎戸育寛は、JSB1000仕様となった第6戦オートポリス、第7戦岡山国際と調子は良かったが、レースで結果を残せていなかっただけに、今回は3レースとも上位でフィニッシュしたいところだった。しかし、走り始めからマシンセットに悩まされ、なかなかタイムも上げられずにいた。公式予選でも思うようにタイムを上げることができず10番手と苦戦。セカンドタイムでも9番手と後方からのスタートとなっていた。



JSB1000 #28 Ikuhiro Enokido

20周で争われたレース1。後方からの追い上げとなった榎戸は、作本選手、岡本選手とバトルを繰り広げながら周回を重ねる。一時は6番手につけていたが、2台にかわされ8番手。レース終盤にペースの上がない岩田選手をかわし7番手に浮上したところでチェッカー。レース1を終えたところで、ようやくマシンのフィーリングがよくなってきていた。

レース1のデータを生かし、レース2に向けてマシンセットをアジャスト。朝のウォームアップ走行の感触はよく決勝に向けて気持ちを高めていく。レース2のグリッドは、レース1のベストタイムで決まり、榎戸は7番手グリッドに着いた。

12周という短期決戦で争われたレース2。榎戸は、3列目から好スタートを切ると1コーナーへ3番手が入っていく。そのままトップ争いを繰り広げていくかと思われたが、200Rシケインで痛恨の転倒。スタートから1周もできないまま戦列を離れることになってしまう。ケガがなかったのが不幸中の幸いだった。

気を取り直して迎えたレース3。レース2のこともありオープニングラップは、慎重に終え10番手でホームストレートに戻ると、1台、また1台と周回ごとに前を走るライダーをパス。4周目には7番手に上がると、8周目には6番手につけていた。トップグループを追っていたが、ほぼ同じペースのため追いつくことができない。単独走行のままレース終盤を迎え、そのまま6位でチェッカーフラッグを受けた。



ST600 #33 Yuki Kanii

ST600クラスの國井勇輝は好調だった。マシンとタイヤの特性も把握できるようになり、鈴鹿8耐に参戦し、走り込んでいたコースということもプラスに働き、常にトップ5につける速さを見せていた。予選では2分11秒467までタイムを縮めたフロントロウは逃したものの4番手。決勝でも積極的な走りを見せオープニングラップで2番手に上がるとトップ争いを繰り広げる。

レース中盤になるとトップを走るライダーがペースを上げ、國井は単独で2番手となっていたが、終盤に小山選手と荒川選手の接近を許し、三つ巴の2位争いとなる。そして残り2周となった12周目の1コーナーで小山選手にかわされ3番手に下がると、最終ラップには荒川選手にかわされてしまう。國井は意地を見せオープンカーブで荒川選手を抜き返し3位でゴール。表彰台に上がってシーズンを締めくくった。一方、千田は、21番手スタートから追い上げのレースを繰り上げポイント圏内までポジションを回復していたが、12周目のシケインで他車に巻き込まれてしまい転倒。ゴールまで1周と僅かという場面でのアクシデントだけに悔しい最終戦となってしまった。

J-GP3クラスの小合真士は、予選でタイムアップし7番手グリッドを獲得していたが、決勝ではペースを上げられずにいた。赤旗中断をはさみ、残り5周で再開されるとオープニングラップで大きく順位を落としてしまう。そこから追い上げ14位でフィニッシュ。昨年に続きランキング9位となった。

MFJ CUP JP250の赤間清は今回走り始めから好調で公式予選では、いいタイミングでタイムアタックに入ることができ自己ベストを1秒以上更新。決勝では、目標には届かなかったものの、しっかりチェッカーフラッグを受け、シリーズランキングではインタークラス7位となった。



JP250 #27 Chihiro Ishii

石井千優は、予選で転倒があったものの4番手グリッドから積極的な走りを見せ、タイトルを争う中村選手と好バトルを展開。6位でゴールし、シリーズランキング2位でシーズンを終えている。

■榎戸育寛コメント

「オートポリス、岡山と調子がよかったので、その流れで今回もいけると思ったのですが鈴鹿8耐のよかったときのイメージが強く、そこに近づけようとしてトライしていました。レース1のときで、ようやくまとまってきたので、レース2に向けて新たにトライをして、それがいい方向に行っていたのですが転倒してしまい残念な結果になってしまいました。レース3のペースは悪くなかったので、グリッドが後方だったことが響きましたし、レース2でも同じ速さで走ることができていたと思うと悔しいですね。今シーズンも多くの経験ができたことを、チーム、スポンサー、応援してくださった皆さんに感謝いたします。ありがとうございました」

■國井勇輝コメント

「ST600で初めて鈴鹿を走りましたが、鈴鹿8耐に参戦させてもらいましたし、知っているコースだったので違和感なく走る出ることができていました。最初の走行から上位につけることができましたし、今回はトップ争いができる手応えを感じていました。予選でも一発タイムを出せましたし、決勝日朝のウォームアップで変更したセットがいい方向に行ったので自信をもって決勝に挑みました。とにかく自分らしいレースをしたかったので最初から全力で攻めました。結果的に経験不足が出てしまいましたが、表彰台に上がってシーズンを終えることができたことは、まずまずだったと思います。まだまだ課題は残っているので、さらに速く走ることができるようトレーニングに励みます」

■千田俊輝コメント

「鈴鹿を走るのは2年振り、ST600で走るのは初めてという状況でしたが、チームのおかげで走る度にマシンはよくなっていましたし、しっかりポイントを獲得してシーズンを終えたかったのですが、他車の転倒に巻き込まれてしまいました。悔しい結果となりましたが、レース内容はよかったので得ることの多い最終戦になりました。思うように結果を残すことはできませんでしたが、チームの支えのおかげでライダーとして成長できました。まだまだ課題は盛りたくさんですが、もっと速いライダーになれるように努力していきます。多くの応援ありがとうございました」

■赤間清コメント

「今回は初日から自己ベスト付近で走ることができ、予選では自己ベストを1秒1更新することができました。午後になると風の影響を受けやすく、決勝も案の定、風が出て来ていました。スタートはうまく決まったのですが、セクター2をうまくまとめられず目標には届きませんでした。シーズンを通じては、5つのコースで自己ベストを更新できましたし、トラブルも転倒もなく終えることができたことを、昭和電機さん、チームを始め応援してくださった皆さんに感謝いたします」